

初年度のサービslラーニングクラスを担当して

村上徹也

今年度のサービslラーニングクラスを担当して、第一に記しておきたいことは、日本福祉大学においては新規の試みであったプログラムに学生の地域活動先としてご協力いただいた NPO の皆様への感謝である。同時に、先輩からの情報がないこの授業に意欲をもって参加して、試行錯誤しつつ 1 年間努力を重ねてくれた学生たちへの敬意も記したい。

この両者の出会いと関わり合いが、多くの実りを学生たちに与えたことは、学生たちの報告書や振り返りアンケートなどの結果に表れている。ある学生は、事前・事後の授業ごとに記入したリフレクションシートの内容を読み返して、「内容ががらりと変わった」と報告書に書いていた。学校の授業で学んできた「社会福祉」について、生身の人間の暮らしを起点にして理解を深めたり、現実と向き合いながら地域福祉を担っている NPO の大切さに共感したりといった記述が、学生たちの提出物に溢れていた。

学生たちの学びは、彼らを取り巻く外の世界に関する事柄ばかりではない。コミュニケーションの力が高まった、自分の行動についての責任感が強くなった、自分と異なる考え方を受け入れることができるようになったなど、自己の内側の成長を自覚したという記述も多く見られた。加えて、感謝の気持ちをもって人と接することや相手の立場に立って考え行動することの大切さに気づいたという記述も多かった。実社会の中での体験、特に他者や社会に役立つとする活動の中では、そうした利他性を学ぶ機会が多く得られるというサービslラーニングの利点が現れている。

活動先のアンケートなどからは、学生への関わり方についての戸惑いがあったこと、学生の活動への教員の関わり方や活動先とのコミュニケーションについての課題など、プログラム運営に関して多くの示唆をいただいた。しかし、多くの活動先が、戸惑いつつも学生たちを受け入れていただいた結果、日々の取り組みの即戦力というよりも、学生の若いエネルギーや新鮮さなどが活動先に与えた影響を彼らの貢献ととらえていただいた様子が見えてきた。また、サービslラーニングの大きなねらいである「学生たちを市民社会の担い手として育む」という点について良くご理解いただき、学生たちの活動を受け入れた成果として感じていただいたことも確認できた。

教員による学生の指導については、前期の授業における活動先に関する情報提供や基本的なルール・マナーに関する指導の不足などが指摘され改善すべき面も多いが、サービslラーニングの基本でもあるリフレクションに関しては、後期授業でかなり丁寧に行ったことにより、学生たちの学びの成果が充実したと認識している。